



学校通信

平成29年度 第10号
平成30年 2月 1日
練馬区立開進第三小学校
校長 土屋 信行

学校に行ったら… 家に帰ったら…

校長 土屋 信行

「学校に行ったら先生の言うことを聴きなさい。」「家に帰ったら親の言うことを聴きなさい。」私たちの世代は子供の頃、保護者や先生方からよくこのように言われました。果たして今はどうでしょう。全く聴かれなくなったとは言いませんが、耳にすることはかなり少なくなったと感じます。これは何故なのでしょう。

不適切・不確かなことを子供に投げかけたり、体罰を行ったりする教師がいるからでしょうか。躰という名の下に暴力行為・虐待を行う保護者がいるからでしょうか。これらは極端な例ですが、子供たちに「大人の言うことを聴きなさい。」と、単純には言い難い時代になった、と感じている人が増えたことは否めないでしょう。その結果多くの人が、自分の子供や自分とかかわりのある子供には、極力他者の影響を受けさせたくないと考えるようになったのではないかと私は思っています。

しかしそれでも、真剣に子供の成長や将来のことを考えるのであれば、保護者、そして教師は、お互いを「信じる」努力をし、子供たちに上記の言葉かけをすべきであると私は考えます。

以前にも述べましたが、人はすべて好ましいと思われる環境の中で生活することはできません。善悪を含めた様々な出会いの中で、それをまず受け止め、受け入れるか・受け入れないかを自分で判断し意志決定をしていくのです。その基を築くのが、子供の頃の保護者や教師からの教えです。子供たちは赤ん坊の頃から身近な大人の指導によって多くのことを学びます。「自分の一番身近にいる大人（保護者や教師）は信頼できる人なんだ。」「言うことを聴くことは大切なことなんだ。」と、幼い頃から教わることは、その子の人格形成に関して、間違いなくプラスの方向に大きな影響を与えます。

もちろん、保護者も教師も完璧ではありません。間違えることもあります。しかし、それを反省し、改め、よりよくなろうとしていることを互いに信じてほしいのです。信じるに値する保護者や教師になるための努力をしてほしいのです。それには、子供たちに正しいこと・善いことを教え、質問されればごまかさずに真摯な態度で応え、やり込めるのではなく話し合い、もし自分の間違いに気が付けば、素直に改める勇気をもった大人になるべく日々努力することが必要なのだと私は思います。

これらの積み重ねの中から、皆が自信をもって子供たちに「学校に行ったら先生の言うことを聴きなさい。」「家に帰ったら親の言うことを聴きなさい。」と言える日が来ると私は信じています。

